

団地設計思想 昭和30→43



J.H.C OSAKA

序

大阪支所 設計課の団地設計思想の流れは『人間融和』への歩みといえる。

設計手法の歩みがなせ『囲み型』配置に発展したが過去14年間の成果をかえりみその一つの統合的な展開といえる。新千里東町団地の設計主旨を要約する。

最近とくに重要な問題となっている近隣レベルのコミュニティ意識、共同空間の扱いについてのスタディの過程ともいえる。

われわれ人間はその発生の当初において、シェルターやフェンスにおいて自然の広大な空間から人間のための空間を切り取り、そこの生活を通して現段階の高度な文化に到達した。

現代の流動的・情報的都市においてこの『囲まれた空間』がどのような意味をもつか

流動性・情報などによってさらに活発化される人々とのコミュニケーションは余暇の増大にもなって住居近辺においてもますます豊かな共同空間を必要とし、さらにこの空間がより高度な『囲み』によってその質を高めることが必要とされる。その質を高める技法を追求したい。

